

NHK for School「ドスルコスル」を活用した教員研修の実施と評価

玉元陽大（兵庫県姫路市立白鷺小中学校）・石堂裕（兵庫県たつの市立新宮小学校）
黒上晴夫（関西大学）・泰山裕（鳴門教育大学）・遠衛孝成（日本放送協会）

概要：新学習指導要領において探究的な学習が重要視されており、その中心は総合的な学習の時間である。しかし、総合的な学習の時間をどのようにデザインし、実践するのかについてはイメージが持てない教員もいる。そこで、本研究では、NHK for School「ドスルコスル」を活用した教員研修を実施し、その成果の検証を目的とした。研修の見取りやアンケートによる評価を実施した結果、総合における授業デザインや教師の手立てについて理解できたことが分かり、教員の多くが総合の授業に対する具体的なイメージを持ったことが明らかになった。

キーワード：総合的な学習の時間、NHK for School、教員研修、授業デザイン

1 はじめに

新学習指導要領では探究的な学習が重視される。総合的な学習の時間（以下、総合）では、探究的な見方・考え方を働かせることが求められるため、その学習の重要性は高い。

姫路市において実施した生活総合担当向けアンケートでは、回答者の多くが授業づくりに不安をもっていることが明らかになった。その理由の多くは、校内の教員の総合への無関心や探究的な学習に対するイメージの欠如である。

総合の実践を取り上げたNHK for School「ドスルコスル」（以下、「ドスルコスル」）の番組ホームページは、子供たちの探究的な学習の様子を端的に伝え、さらに教員向けページには授業者が語る手立ても動画収録されている。この活用法を探り、モデル化することで、探究的な学習への改善に不安を感じる教員も、主体的に授業デザインのポイントを理解できると考えた。

そこで、本研究は、「ドスルコスル」を活用した研修を設計・実施し、その効果について評価とするとともに、汎用性の高い研修にするために経験知の異なる教員によるコーディネートの影響についても調査することを目的とする。

2 研究の方法

（1）調査対象

H市教員、S市教員、A市教員 他（79名）

（2）調査方法

以下の手順でデータを収集した。まず「ドスルコスル」を活用したモデル研修を実施し、効果を検証するために、事後アンケートを行った。事後アンケートには、次の設問を用意した。

- | |
|--------------------|
| ○授業デザインがイメージできたか。 |
| ○新たに獲得した教師の手立ては何か。 |

（3）モデル研修について

①研修の留意点

- 子供たちの主体的・対話的で深い学びの様子を伝えること
- 対話を重視した協働的な研修にすること
- 参加者が校内研修に活用できる汎用的なものにすること

②研修の流れ

[活動1] 課題の共有

参加者自身の授業づくりに対する課題をワークシートで可視化する。

[活動2] 映像の視聴

「ドスルコスル：こうする編」のうち、自然環境単元を視聴し、子供の活動に関わる授業者の手立てを付箋に書き出す。

[活動3] 参加者による協議

書き出した付箋を、探究のプロセスに基づいて整理する。授業者が語る手立てのポイントを視聴し、確認する。

[活動4] 事後アンケートの記入

③異なるコーディネーターによる進行

汎用性の高い研修にするために、経験知の異なる教員が進行し、事後アンケートの結果を比較する。コーディネーターの経験年数と担当した研修は以下の通りである。

A：教員経験 13 年（2 部会 20 人対象）

B：教員経験 7 年（1 校 19 人対象）

C：教員経験 27 年（2 校 40 人対象）

3 事後アンケートの結果

2つの項目に関する結果は次の通りである。

[項目 1]

授業デザインがイメージできたか (5点満点での評価)	A	B	C
	4.60	4.29	4.85

[項目 2]（複数回答を可とする）

探究のプロセス	教師の手立て	A(20人)	B(19人)	C(40人)
課題設定	身に付けたい力を子供が主体的に決めること	5	0	6
	前学年の学びを、今年の学習に生かすこと	0	1	6
	身近なところから課題を見つけること	3	3	8
	子供の疑問から、問いをつくること	0	4	3
	必要感に迫る問いをつくること	2	1	12
	子供の思いから学習活動をつなぐこと	2	2	8
情報収集	複数の方法で調べること	3	9	8
	ICTを効果的に活用すること	2	0	4
	子供を地域のひと・もの・ことに出会わせること	4	0	3
	教科等の知識をもとに、専門家と対話すること	1	0	8
	教師のアンテナを高く張っておくこと	2	2	6
整理分析	子供たちが主体的に話し合うこと	3	0	14
	相手意識や目的意識をもって整理すること	1	0	4
	因果関係を考えること	2	0	4
	体験を言語活動でアウトプットすること	1	0	10
まとめ・表現	伝える必然性を持たせること	2	0	8
	国語科や理科など教科等と関連を図ること	2	0	4
	知識を再構成し、相手に伝える場を設定すること	2	0	6

※探究のプロセスに当てはまらないものは省く

表 1 手立てに関する集計結果

4 考察

[項目 1] は、調査したすべての研修会で、5 点満点中 4 点以上の評価を得ている。このことから、ほとんどの参加者は授業のイメージをつかむことができたと思われる。

[項目 2] は、探究のプロセスに基づいて整理した結果の表で、プロセスごとに出現した手立ての種類を列挙し、その個数を示している。

これを見ると、手立ての種類、個数とも「課題設定」が多い。探究的な学習では、課題発見から課題解決のプロセスを重視する。視聴した「ドスルコスル」も子供たちの必要感に迫る問いから課題解決に向けた授業デザインに焦点が当てられていたことをふまえると、参加者が課題設定に関する手立てを獲得したと実感できたのは、モデル研修の効果であるといえる。

一方で、コーディネートの仕方による差も明らかになった。「整理分析」や「まとめ・表現」に挙げた手立てや、「情報収集」での専門家との対話は、探究的な学習には欠かせないものである。経験値の高いコーディネーターは、番組と教科の知識や地域の事象をつなげる工夫をしていることが、記録からはうかがえる。コーディネーターが、参加者が事実に知識や概念を形成するために必要な知識（ここでは教科等から得る知識を指す）や地域における意味付けを意識できるように働きかけることで、この差が縮まる可能性がある。

5 結論

「ドスルコスル」を活用した校内研修は、教員の指導力向上に一定の効果がある。ただし映像内で扱われている内容を広げることに向けさせられるかどうかは、コーディネーターがどこに着目しているかが影響する。

6 今後の課題

今後は、「ドスルコスル」の映像を活用した研修を汎用性の高いものにするのが求められる。現段階で 5 本の実践が用意されており、授業者によって子供たちの学びに応じた手立てがとられている。今後はこれらの授業分析を行い、どの校内研修でも目的に応じて利用できるよう、継続した研究を進めたい。

参考文献

文部科学省, 2017 小学校学習指導要領解説
総合的な学習の時間編